

～ 私の最近の所感と友人からのメッセージ ～

このところ施食会の中止が都内はじめ地方でも出始めていると聞きました。お寺さんは法事の激減 僧侶派遣は法事のキャンセル 減少と火葬式の急増でいづれにしても危機的状况に変わりはありません。観光寺院も参拝中止ですから総崩れになりかねません。廃寺 廃業時代になったと思います。今日は兼務寺院になったお寺さんから書籍等が届きました。これから各寺院 片付け 断捨離 大変になりそうです。

こちらは毎日 大掃除 断捨離です。天候 気候が最高で結構楽しい毎日です。それと手料理に精を出しています。

自粛は必要でした。今のお寺にこれがもっとも大事ではないでしょうか

お寺のかたち 慣習がもっとも変わるのではないかという気がしてます。

組織的に維持が出来るかが当面の課題かと推量します。

友人からのメッセージ以下

おっしゃる通りだと思います。墮落の限りを尽くした仏教界に、お釈迦様が鉄槌を下したのかもしれませんが。仏の教えの本道を忘れ、贅沢がステイタスだと救いようの無い勘違いをしている弟子達に、一切皆苦をもう一度学べと体現させているかのようです。

宗教家として原点に立ち返る方が1割いるかいないか、寺院存続の為に経営者としての覚悟を決める方が2割程度。あとの約7割の方々はコロナと言う過去に経験した事の無い苦境に対し「嵐が去るのを待つ」地方の公務員的な考えしか出来ないのではと危惧するばかりです。

今日の中外日報を読ませていただきました。今回の鵜飼説(令和の仏教を歩く8“菩提寺のコアなファン増やす”2020/04/22)はあまり賛同出来ません。寺院の救済策としては一理ありますが現実的な理論ではありません。もう今のお寺のシステムは今の時代には適合しておりません。檀家制しかり 本末 教区 宗制 すべてが旧態依然としていて魅力的な世界ではなくなってしまったということです。もちろん布教がすべてではあるんですが。僧侶に力がなくなったというだけのことです。それは有能な僧侶が育ちにくい環境になったということです。そこで改めてお寺は 宗派はどうあるべきなのか そこを追求していくしかありません。

個の時代を生きる理想の僧侶とは

情報化社会の中でお寺の生き残る道とは

檀信徒との付き合い方 お寺との付き合い方 宗門との付き合い方 そこに答えが出せた人が新しい時代を切り開くこととなります。それが今の私の答えです。

私の今の心境は東の間の休暇中と言ったところですが。これまで精力的にやり過ぎてきた面は否めません。今は自宅でホームワーク 掃除 洗濯 読書や映画を見て暮らしたいものです。

これからの僧侶の生き方 働き方 昔も今も変わりませんが。欲を捨てて謙虚に生きるだけ。偉そうな愚か者が多すぎただけのことです。

令和2年5月9日
見性院住職 記